

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 中津北 高等学校	
学校教育目標	各教科の学習や探究活動、部活動・生徒会活動・読書活動などを通して、21世紀型能力を構成する基礎力・思考力・実践力(各達成指標に育成する力を明示)を育成し、民主的な社会の実現に主体的に貢献する人材を養成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・良い ・スクール・ミッションや校訓と運動した学校教育目標を策定することで、高校のありたい姿が明確になってきた。 ・教員との面談を通して、教員に寄り添いながら教員の成長支援と学校改善への主体性を育む努力が見られる。 ・重点目標である「社会課題克服への意欲の育成」について、課題を生徒に意識させる機会を持つてるとお良い。	・校長のリーダーシップの下、スクール・ミッションや学校教育目標の達成に向けて、教職員全体で組織的に取り組む態勢を強化し、入学定員確保や授業改善といった重点課題の共有を図ると共に、改善・解決に向けた方策を実施していく。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い ・学校評価アンケートのデータを3年分提示することで、学校の評価は概ね高く、安定していることが見て取れた。 ・運営委員会等が機能し、全教職員への共通理解が進み、組織的な責任運営体制が整備されていると思われる。 ・模試の結果をもとに、達成指標を柔軟に設定し、それを授業計画に活かしていることが伺われる点は評価できる。	・生徒・保護者アンケート、学校関係者評価委員会や学校評議員会の意見を集約し、分掌や学年を中心に検討の場を設定する。調査結果の分析から改善までの期間を短縮し、短い期間でPDCAを実行する。特に生徒アンケートの結果に対する迅速・誠実な回答のための計画を策定しておく。 ・運営委員会、分掌会議、学年会議等の活性化を図り、分掌・学年での検討内容について活発な意見交換をおこない、組織的な取組としていく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い ・学年保護者会を始めとした、学校の思いを伝える行事における保護者の出席率をいかに増やすかが課題である。 ・哲学対話、きれまち隊(清掃ボランティア)は中津北高の特色あるプログラムとして、学校内外に発信できている。 ・地元の小中学校に生徒が赴いて、学びの成果を発表する機会など、生徒主体で地域との連携を図る試みが良い。	・「地域とともに輝く高校魅力化事業」を軸として、引き続き地域に根ざした教育を推進していくと共に、授業や学校行事、部活動、総合的な探究の時間等を通じて、地域を理解し、地域に貢献できる人材育成に取り組む。 ・学校紹介動画や学年通信、学校ホームページ等を活用して、生徒の活動内容や進路実績などを発信する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い ・「主体的な学び」は授業観察からあまり伺えなかったが、クラスによっては、タブレットを通して振り返りをしている。 ・本時の目標について、提示の仕方に差がある。深い学びにつなげるために、提示の統一を図ることが望まれる。 ・生徒からのヒアリングで、ICTの活用について学習の効率化が進み、授業がわかりやすくなったとの声があった。 ・教員ではなく、生徒に教科書を読ませたり、じっくり考えさせたりする時間を設けた方が、さらに良くなると感じた。	・「主体的な学び」の推進に向け、学術的見地に基づいた生徒の「学習動機づけ」レベル診断を実施し、生徒の実態に応じた学習方略指導を進める。 ・生徒が在り方・生き方を考える「総合的な探究の時間」と各教科での学びを有機的に結びつける、「学びのSTEAM化」に向けての準備を進める。 ・本時の目標提示について、シラバスで示した観点別評価に基づく評価規準をベースにして、生徒目線での文言で提示するように統一見解を図る。 ・授業支援アプリケーション(MetaMoji Classroom)やMicrosoft Teamsを中心に、ICTを積極的に活用して学習の効率化をさらに図る。 ・生徒が思考・判断・表現する学習活動を積極的に取り入れ、生徒を主体にした授業展開を推進する。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い ・7月の第1回学校訪問での評価から特に変化はなく良好である。引き続き長欠傾向の生徒も少ない。 ・欠席者が少ないのは、学校組織のいじめ、不登校問題に対して適切な対応がなされているといえる。	・クラス個人面談期間を年2回設定し、生徒把握と共に学年会議や関係分掌と必要な情報共有を迅速かつ円滑に行う。 ・年間3回のいじめ調査を継続し、生徒の「心理的安全性」が担保された、安全・安心な環境を整備する。 ・クラス担任や学年との連絡を密にすることで問題事象を早期発見して、ケース会議の開催等、生徒一人ひとりに応じた支援を組織的に行う。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関等と連携し、早期対応を心がける。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い ・第1回学校訪問での指摘事項についてすべて対策がとられた、もしくは考慮がなされており、向上が図られている。 ・教室入口の段差は、つまづくことが想定され、車椅子の訪問者や生徒は不便である。スロープの必要性を感じる。 ・7月の大雨の休校判断について、十分な検証がなされ、大雪など次への行動改善につなげる意志が確認された。 ・校舎の要所に安全確認を促す掲示がみられ、生徒に日頃から危機管理を意識させる働きかけが行われている。	・危機管理マニュアルに基づいた教職員の組織的な体制の充実を図ると共に、災害時の生徒・教職員の主体的な行動を促すための防災避難訓練を計画・実施する。 ・生徒会による交通ルール・マナー遵守の呼び掛けにより、交通規範意識の向上を図る。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・第1回学校訪問のときよりも職員室の雰囲気は良くなっているように見受けられ、笑顔で挨拶する教員も見られた。 ・教員の負担軽減について、特別活動の工夫やペーパーレスでの会議や研修など意識的に見直しが図られている。 ・職員室の扉に職務向上につながる言葉が複数掲示されており、日々の働き方の改善につながっていると考える。	・分掌機構の見直しによる負担の平準化とさらなる業務の効率化を検討する。 ・分掌業務のスクラップ&ビルドを実践していく。また、行事の意義(目的)を再度検討し、改善を行う。 ・タブレット端末や業務支援アプリケーション等の活用により業務の効率化を図る。
	学校課題の解決に向けた取組等	○入学定員の充足に向けた取組が行われているか。	・学校説明会は参加者が増え、好評だった。さらに魅力を外に打ち出して、定員確保へ努力を続けていただきたい。 ・2回の訪問でヒアリングをした生徒は皆明確な将来像を描いており、高校教育のたまものではないかと感じられた。 ・教職員と生徒の協働によって、楽しい学校に進化し続けることが可能であると生徒へのヒアリングから感じられた。 ・廊下に掲示している書などの芸術作品に評釈があることで、生徒にとって新たな気づきがうまれるかもしれない。	・生徒主体のオープンスクールや部活動スキルクリニック(近隣の中学生等と部活動と一緒に)・里帰り授業等の内容を適宜見直し、地域の中学生から選ばれる学校となるように、中学校・中学生・地域住民に対して「中津北高校の魅力」をアピールしていく。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者のアンケートについて、経年変化を見ても、また生徒へのヒアリングの様子からも、満足度が非常に高く、素晴らしいことだといえる。 ・特色である「哲学対話」の外部への発信やシンボルであるNKホール(全天候型の中庭)を基に、校長が築いた良い流れを継続していただきたい。 ・不易としての総合的な人間力の涵養に向けた努力が伺える。校内の桜の木や学食のメニューなど生徒は心のよりどころとして愛着を感じている。 ・市内に複数ある普通科高校として特色を出しづらいたは理解できる。書道や女子バスケットボール等の部活動を通じて、アピールが必要である。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の目標であり課題でもあるのは、定員確保、学力向上、進路実績等である。これまでの取組に加え、多様な生徒が在籍する現状からより細やかな対応が求められるようになり、教職員の業務負担は増加している。この状況に対しては、学校マネジメントの観点から、スクール・ミッションの設定や学校教育目標の修正と共有、分掌業務のスクラップ&ビルドと新しい分掌組織の構築、組織的な授業改善等があげられる。すでに取組を始めたものもあれば、新年度から動き出すものもあるが、これらは生徒の学力向上と教員の負担軽減に不可欠だと認識しているし、この取組を校長のリーダーシップはもちろん、ミドルリーダーが具体的な方策を示していくことで良い軌道に乗せることが、地域からの信頼を継続して獲得することにつながる。一朝一夕に片付くことではないが着実に実行し、中津北の特色である「文武両道」生徒主体の学校行事「全方位的進路指導」等の良き伝統を継承しながら、学校としての活力や魅力を向上させたい。 			